

今回はとてもマニアックな話題（いつもか?）。身近な話でもないし生徒も登場しないので、適当に読み飛ばしていただいて結構です。

11月に長野の安曇野の姉家族のところへ遊びに行った時、みんなで紅葉狩りに出かけた。テレビでも取り上げられる有名な大きなカエデを見に行った。確かに紅葉が素晴らしかった。そんな中、4歳の姪っ子が「これな～に?」と何かを拾ってきた。それを見た途端、私の意識は紅葉どころではなくなった。**クスサンの繭**だ!いや、クスサンの繭自体はそう珍しいものではなくて、過去にも見たことはあるのだが（ただし都会にはない）、実は最近、SNS上でこの繭だけに生える“菌”がいることが話題になっていたのだ。他の生物に寄生する菌（キノコ）のことを「冬虫夏草（とうちゅうかそう）」と呼ぶとVol.93で紹介したが、このSNSで話題になっている菌はなんと“繭”に生える。そんなところにも生えるの?!と一部の生き物好き界隈で注目の的になったのだ（この場合、生き物から生えているわけではないので、冬虫夏草とは呼ばないらしい。）

クスサンの繭があるならこの菌を探してみない手はない。さっそく姪っ子から受け取った繭をしてみる……が、う～ん、よく見えない。この繭には菌はついてない…のかな?よく分からないので他を探してみる。みんなが紅葉を見上げている中で、私だけ地面を凝視。すると、あるわあるわ、クスサンの繭がたくさん落ちていた。手あたり次第拾ってはじーっと観察して菌を探すことを繰り返す。でもよく分からない。結局、菌がついているっぽいものは1つも見つけられなかった。一応、持ち帰ることにして、拾った18個の繭を、入れ物もなかったのでそのまま車の助手席の足元に放り込んでおいた（妻に怒られるかと思ったが、意外と何も言われなかった。さすが我が妻よ、慣れているな）。

持ち帰った繭のことはしばらく忘れていて放置していたのだが、ふと思い出して顕微鏡で見てみたらびっくり!**例の菌がびっしりついている!しかも、なんと18個中16個に!**捨てないで良かったー。

実はこの菌、どうやらかなりの高確率でクスサンの繭に生えているらしいことが分かってきている。それなのになぜ今さら話題になっているのかということ、**これまでみんな気付かなかったから**。誰かがこいつの存在に気付いたことで、他の人も見てみたところ、あっちでもこっちでも次々に発見され、**実は普通に存在していることが分かった**のだ。キノコは普通、土や木に生える。そんな中で、“虫から生える”冬虫夏草のような変なやつもある。さらにさらに、こいつのように“繭なんていう栄養のなさそうなところから生える”もっと変なやつもある。生き物を探すには、「こんなところにいるわけないだろう」という先入観があるとよくないということが今回の件でよく分かった。

たぶん私はもう、野外でクスサンの繭を見つけたら、この菌がついているかどうか肉眼で見分けられると思う。こうやって少しずつ世界が広がっていくのが実に楽しい。



クスサンの繭の殻に生えた菌 *Cocoonihabitus sinensis*

網目状の繭につぶつぶがついている。これが、今のところクスサンの繭からしか見つかっていない不思議な菌だ。最近SNSで話題になり、日本各地で発見が相次いでいる。なぜ繭に生えるのか、どういう生態なのか、まだまだ分からないことだらけ。

イモムシが作ったものとは思えない芸術品「クスサンの繭」（羽化後のもの）  
この繭はクスサンというガ（ヤママユガ科）の幼虫が作ったもの（ミノムシのミノのようなもの）。蛹になるときに作るこの繭は俵型で、通称「すかしだわら」と呼ばれ、美しい網目構造になっている。美しいけど、透け透けの繭って意味あるの?とってしまう。クスサンの幼虫は白髪太郎と呼ばれる白い毛虫で、クリの葉を食べる。夏頃に繭を作ってその中で蛹になり、秋に羽化する。



繭殻に菌がついたもの（左）とついていないもの（右）

今回拾った18個のうち、16個に菌がついていた。すごい高確率!